

第3回首都圏支部医学検査学会の開催にあたって



一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
会長 宮島喜文

本学会が一般社団法人千葉県臨床検査技師会の梅宮敏文学会長の下で、「UNION IS POWER」一臨床検査技師の多様性への挑戦一をテーマとして盛会に開催されますことを、会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

また、日頃から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、「日臨技」と省略）の活動につきまして、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日臨技も新法人に移行し、全国に7支部を設け、支部単位で学会を開催するようになり、3年目を迎えます。当初は会場の確保など準備が整わず、合同開催の方式などもありましたが、計画どおり進められていることに感謝申し上げるところです。一方、関甲信支部との共同での学術活動を求める根強い声もあることから、今年度に設立する（仮称）定款見直し検討委員会に会員の皆様の利便性を考慮した学術研修のあり方について議論をお願いしようと考えております。

さて、今日の私たちを取り巻く環境としては、少子・超高齢化への対策、成長戦略としての規制緩和、医療のグローバル化という大波が押し寄せています。戦後に築いたものの価値観が簡単に崩れさる状況に直面しています。臨床検査・臨床検査技師は永遠に安泰であるとの保証は全く見出せない現実をきちんと捉えることが必要な時代になりました。

厳しい環境の中でも、社会の変化から取り残されることなく、自らの歩むべき道を見出し、一步を踏み出さなければ未来は開かれません。

日臨技におきましては、今年から会員数“6万人”達成を目指し、組織強化運動に着手します。また、学術活動では、先進的な医学や専門的な臨床検査技術を学ぶセミナーや研修会を開催して、会員の皆様の学習の場を提供して参ります。念願の法改正により検体採取が認められ、研修が義務化されました。これについての取り組みや職域拡大に繋げる様々な講習会も開催していきます。

本学会が「学問に国境はない。されど、国籍は日臨技にあれ。」の方針の下で、学術活動の更なる発展を願い、日頃の研究成果を発表する場であり、更に会員相互の交流を進め、今後の学術的な研究や業務改善に繋がることを祈念いたします。

（平成26年6月）